

第1回審議会(前回)の振り返りと 今後の検討について

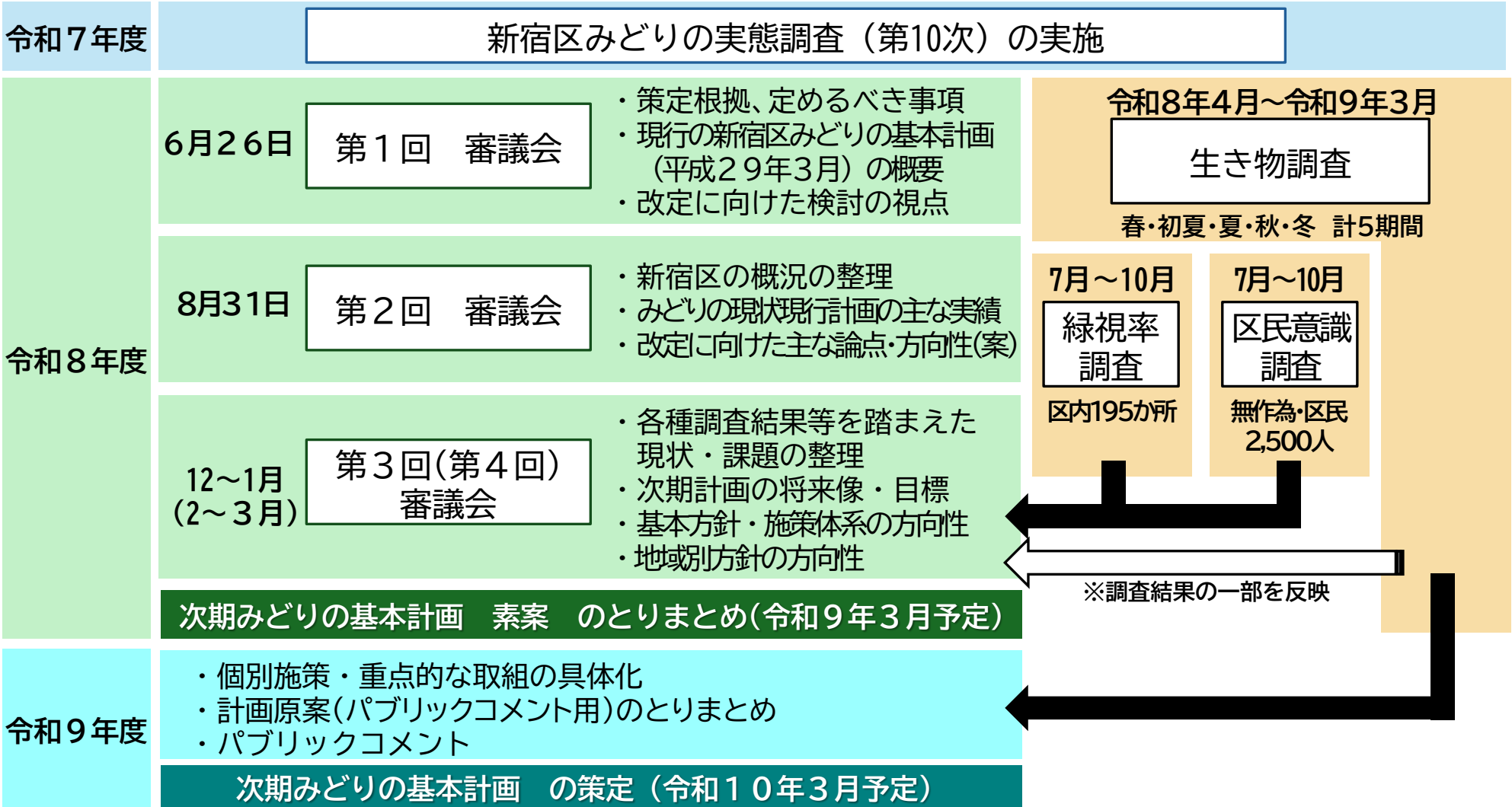
01 第1回(前回)審議会における主な意見

- ◇第1回審議会では、現行の「新宿区みどりの基本計画」の位置づけや計画期間、目標等を確認するとともに、国・東京都等の動向や社会情勢の変化を踏まえ、改定に向けた基本的な考え方を説明しました。
- ◇また、今後の検討の視点として、自然の機能を活かした都市課題への対応、生物多様性の保全・回復、都市空間の魅力向上、みどりの質の向上と持続可能な管理運営の4つの視点を示しました。
- ◇その上で、説明した内容全般について幅広くご意見を求めるとともに、今後の検討において「新宿らしさ」を考えていくための手がかりとして、「新宿らしいと感じる場所」や「どのようなみどりがあったらよいか」について、委員の皆様からご意見をいただきました。

第1回審議会での主なご意見		今後の検討に当たっての留意事項
新宿らしさ・地域特性	・繁華街、住宅地、水辺、大規模公園など、地域ごとに様々な顔を持つことが新宿の特徴ではないか。 ・歌舞伎町や再開発地区など、都市的な空間においても新宿らしいみどりのあり方を考える必要がある。	▶土地利用やまちの成り立ち、みどりの状況など、地域ごとの特性を踏まえたみどりのあり方 ▶都市としての新宿の特徴とみどりとの関係を踏まえた、「新宿らしさ」の捉え方
みどりの質・魅力	・都市の変化が大きい新宿では、みどりが「変わらない風景」となり、地域への愛着や帰属意識につながらないのではないか。 ・街路樹は樹形や健全性、地域の歴史・特色なども意識してはどうか。	▶みどりの量に加え、樹木の健全性や景観、地域への愛着など、みどりの質や価値を捉える視点 ▶既存のみどりの維持・更新と、地域の魅力や景観との関わり
公園・オープンスペース	・公園面積を増やすだけでなく、小規模な公園を大きくすることや、公園の少ない地域に戦略的に確保することも重要。 ・大規模公園だけでなく、身近な公園や児童遊園にも目を向けてほしい。	▶公園面積だけでなく、配置や規模、利用状況、求められる機能など、多面的な視点からみた公園のあり方 ▶大規模公園だけでなく、身近な公園・児童遊園を含めた、地域ごとの公園・オープンスペースの状況
生物多様性	・生物多様性地域戦略として、方向性だけでなく目標や具体的な施策が必要。 ・ビオトープだけでなく、公園や街路樹等のつながり、在来種等にも着目してはどうか。	▶生き物の生息・生育状況や、みどり・水辺等のつながりを踏まえた、生物多様性の保全・回復のあり方 ▶在来種や希少種等も含めた、新宿区における生物多様性の特徴や目標・指標の捉え方
みどりの機能	・暑熱対策など、みどりの効果を調査や指標によって分かりやすく示すことが重要。 ・街路樹などのみどりが都市環境に果たす役割を示してはどうか。	▶暑熱緩和、防災・減災等、みどりが持つ多面的な機能の捉え方 ▶調査データ等を活用した、みどりの効果や役割の把握・示し方

02 今後の検討スケジュール

- ◇令和8年度は、新宿区のみどりの現状や現行計画の実績を整理し、各種調査の結果も踏まえながら、改定に向けた課題や方向性を検討します。
- ◇その上で、将来像・目標、基本方針・施策体系、地域別方針等を検討し、**年度末に計画素案を取りまとめます**。令和9年度は、施策の具体化やパブリックコメントを経て、計画を改定する予定です。



改定に向けた検討の視点

- 近年、暑さや大雨、生きものの減少、健康や交流の場づくりなど、まちの課題は多様化しています。こうした中で、公園・水辺・街路樹・民有地のみどり等を、暮らしやすいまちを支える基盤として活かす考え方が広がっています。
- 国や東京都においても、みどりを景観やレクリエーションのためだけでなく、**気候変動への対応、生物多様性の保全、防災・減災、Well-beingの向上等に役立つもの**として捉え、取組を進めることが重視されています。
- 新宿区においても、**高密度な市街地の中にある多様なみどりを活かすとともに、新たなみどりの創出し、区民・事業者・行政が連携しながら、みどりの質や機能、管理運営のあり方を検討していく**必要があります。

1

自然の機能を活かした都市課題への対応

公園・緑地、水辺、街路樹等が持つ自然の働きを活かし、暑熱緩和、雨水流出抑制、防災・減災などの課題への対応につなげる考え方です。

関連キーワード
グリーンインフラ、NbS、気候変動適応、暑熱対策、流域治水、雨水貯留・浸透、防災・減災

グリーンインフラの取組
新宿三丁目テラス



三井不動産新宿ガーデン



2

生物多様性の保全・回復に資するみどりの形成

生物多様性とは、さまざまな生きものと、それらがすみ環境とのつながりのこと。身近なみどりや水辺を、生きものの生息・生育環境として捉え、在来種への配慮や連続性の確保などにより、自然環境の質を高める考え方です。

関連キーワード
ネイチャーポジティブ、30by30、OECM、自然共生サイト、エコロジカルネットワーク、在来種配慮、外来種対策

新宿の森(あきる野市)



区立公園のビオトープ



3

都市空間の魅力向上に資するみどりの活用

公園・緑地、水辺、公開空地等を、休憩、交流、回遊、にぎわいなどに資する空間として活かし、まちの魅力向上につなげる考え方です。

関連キーワード
Well-being、公園・オープンスペースの柔軟な活用、Park-PFI、民間敷地のみどり、水辺空間の活用、回遊性・滞在性、にぎわい創出

都立明治公園



新宿中央公園



4

みどりの質の向上と持続可能な管理運営

みどりを増やすだけでなく、既存のみどりを良好な状態で維持し、適切な更新や多様な主体との連携により、次世代へ継承する考え方です。

関連キーワード
良質な緑地の評価、官民連携、多様な担い手、樹木更新、公園施設長寿命化、適切な維持管理

維持管理活動への参加



街路樹の健全な育成



新宿区
の関連
計画等

○都市機能の集積を活かした拠点形成とまちづくりの推進

例) 総合計画、まちづくり長期計画、都市マスタープラン、まちづくり詳細計画 等

○脱炭素・気候変動適応を含む環境都市づくりの推進

例) 第三次環境基本計画(地球温暖化対策地方公共団体実行計画、地域気候変動適応計画) 等

○災害に強く、安全・安心に暮らせる都市環境の形成

例) 地域防災計画、災害時受援対応計画、震災復興マニュアル、各種防災まちづくり施策 等

○誰もが利用しやすい、快適に回遊できる都市空間の形成

例) ユニバーサルデザインまちづくり条例、UDまちづくりガイドライン、各種の景観まちづくり施策 等

1 自然の機能を活かした都市課題への対応

関連キーワード	用語解説
グリーンインフラ	自然環境が有する多様な機能を、都市環境の改善、防災・減災、地域の魅力向上等に活用する考え方。
NbS	自然を活用して、気候変動、防災、生物多様性等の社会課題の解決を図る考え方。グリーンインフラと関連する概念として用いられる。
気候変動適応	気温上昇や大雨の増加など、気候変動による影響に備え、被害の防止・軽減を図る取組。
暑熱対策	猛暑やヒートアイランド現象による暑さを緩和し、屋外空間の快適性や安全性を高める取組。
流域治水	河川だけでなく、雨水が集まる地域全体で水害リスクを低減する考え方。雨水の貯留・浸透や土地利用の工夫等も含まれる。
雨水貯留・浸透	雨水を一時的に貯めたり地中に浸透させたりすることで、河川や下水道への急激な流出を抑える取組。
防災・減災	災害の発生を防ぐ、または災害発生時の被害をできるだけ小さくする取組。公園・緑地は避難空間や延焼防止等にも関係する。

2 生物多様性の保全・回復に資するみどりの形成

関連キーワード	用語解説
生物多様性	多様な生きものが存在し、それぞれが関わり合いながら成り立つ自然環境のあり方。
ネイチャーポジティブ	生物多様性の損失を止め、自然を回復の方向に向かわせることを目指す考え方。
30by30	2030年までに陸域・海域の30%以上を保全することを目指す国際的な目標。
OECM	法令等に基づく保護地域ではないものの、生物多様性の保全に貢献している区域。
自然共生サイト	民間等の取組により、生物多様性の保全が図られている区域として国が認定する区域。
エコロジカルネットワーク	生きものの生息・生育空間をつなぎ、移動や分散がしやすい環境を形成する考え方。
在来種配慮	地域にもともと生育・生息している植物や生きものに配慮し、植栽や管理を行うこと。
外来種対策	地域の生態系等に影響を及ぼすおそれのある外来種について、防除や拡散防止を行う取組。

3 都市空間の魅力向上に資するみどりの活用

関連キーワード	用語解説
Well-being	身体的・精神的・社会的に良好な状態。みどりは、健康づくり、休憩、交流、心地よい滞在等を支える要素となる。
公園・オープンスペースの柔軟な活用	公園や広場等を、休憩・遊びに加え、交流、イベント、地域活動等の多様な用途に活用すること。
Park-PFI	民間事業者の資金やノウハウを活用し、公園施設の整備・管理運営を行う制度。
民間敷地のみどり	住宅、店舗、事業所、公開空地等の民有地にある樹木や植栽。都市の景観形成や暑熱緩和にも寄与する。
水辺空間の活用	河川、池、外濠等の水辺を、景観形成、散策、休憩、交流、にぎわい等に活用すること。
回遊性・滞在性	まちなかを巡りやすく、また、その場所で過ごしやすい性質。歩行空間、木陰、休憩場所、広場等と関係する。
にぎわい創出	人々の活動や交流を生み出し、まちの活力や魅力を高めること。

4 みどりの質の向上と持続可能な管理運営

関連キーワード	用語解説
良質な緑地の評価	緑地の量だけでなく、生物多様性、防災、景観、利用環境、管理状況等の質を評価する考え方。
官民連携	行政と民間事業者、地域団体等が連携し、公共的な取組を進めること。
多様な担い手	区民、事業者、地域団体、学校、NPO、ボランティア等、みどりの保全・創出・管理・活用に関わる主体。
樹木更新	老朽化、生育不良、倒木リスク等を踏まえ、樹木を計画的に植え替え、育成すること。
公園施設長寿命化	公園施設を計画的に点検・補修・更新し、安全に長く利用できる状態を保つ取組。
適切な維持管理	樹木、植栽、公園施設等を良好な状態に保つため、点検、剪定、補修、清掃等を計画的に行うこと。